

於四孝或問小解

熊澤先生

9
3438



虞舜ハ野人の子也歴々
 耕マツル時母
 といれ継母が父
 といふにハ舜田
 作テ耕シ竹ハ象來テ耕
 と芸人ハ鳥々として芸
 誠孝ト地ト動一鬼神
 感ザル帝堯とありて
 賓客の礼と以テ九男ハ子
 小池と命リ一女子娥皇

口 9
3438

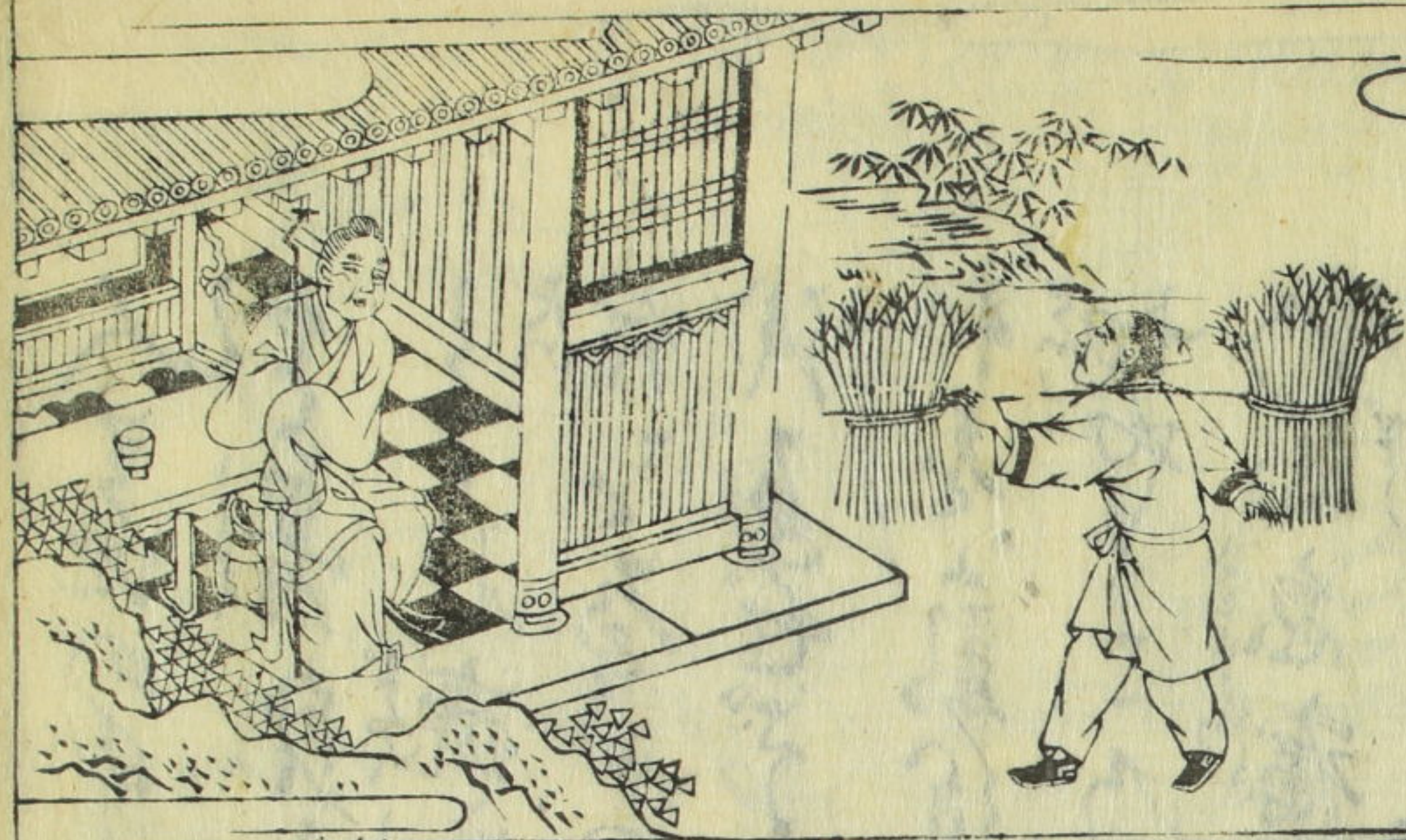
口 9
3438
後

新金田
 北條氏
 年
 月

730

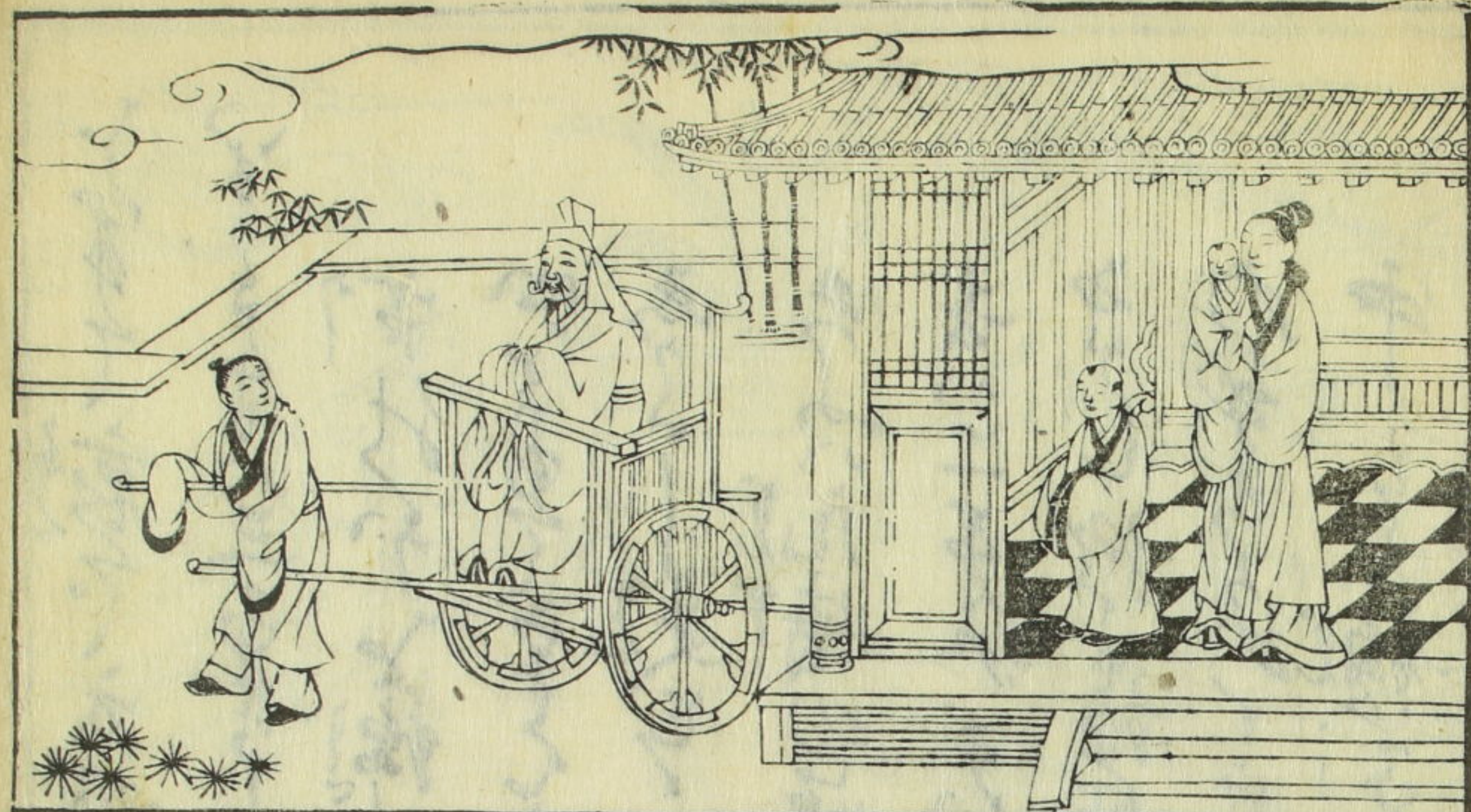
はぐさくす久しとてにこころ子仁孝とて
小軍ふ

漢朝ハ高祖よりひととて四百年
の基ハ文帝の考に振るなり孝の
生るの至宝也宇宙にありてふけく日と
しとせむとといふと天也生るの徳と
も受て性命とす萬物皆生る唯
人ハ五行の精霊と得て明德あり萬
物ハもろくも怨あり明德の感也存
し先なりとれ



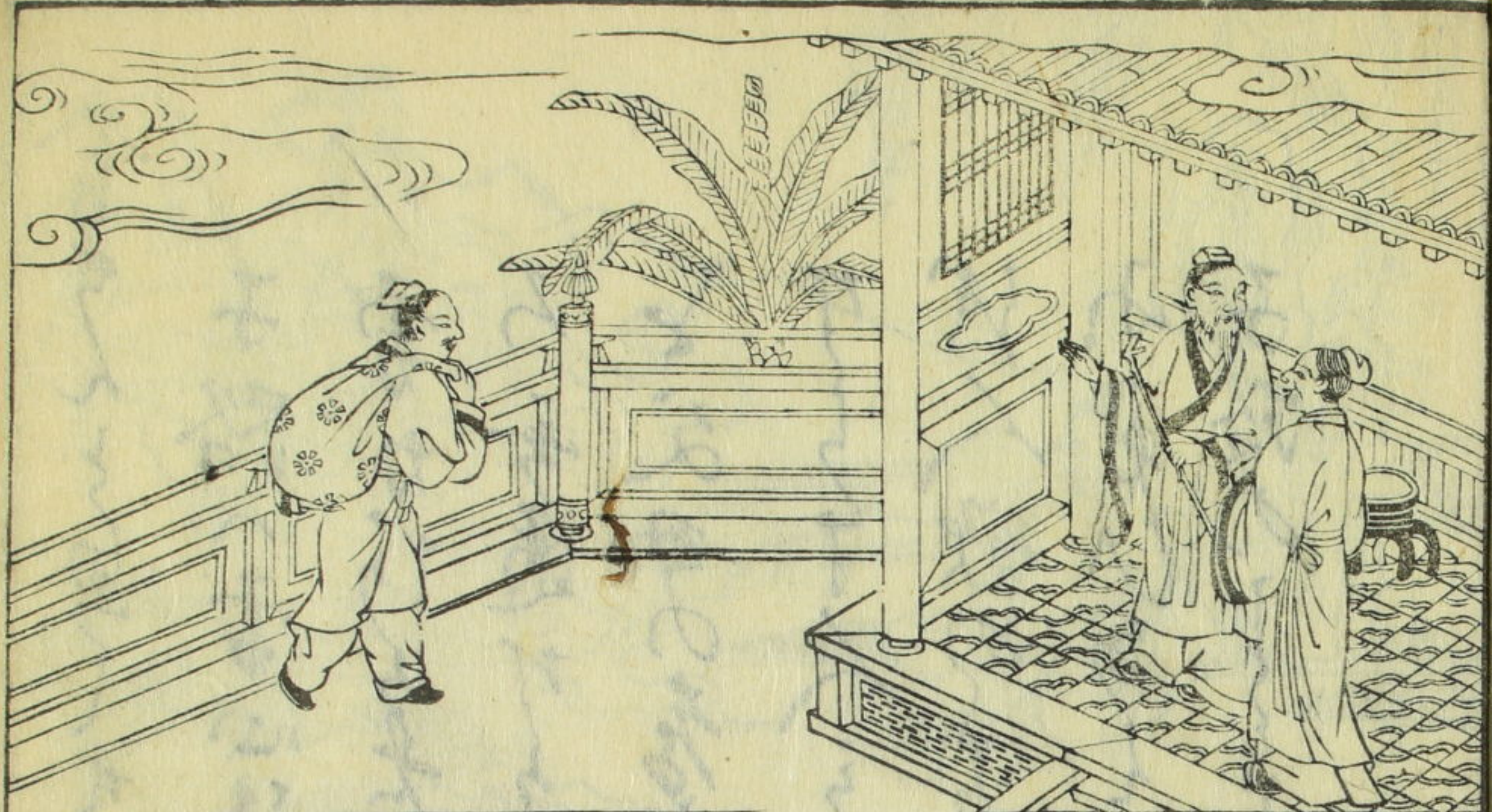
周ノ曾子君ハ参字ハ子輿大賢
也孔門道統の宗也親とけり
へく至孝也わが時山林に入
て薪とてふあゝ客来れわ
母参ると思ふと指張るじ曾子
をしす心解くもわ母乃
親を来るも後知くつと
ゆく其故と向母の云急客
あり吾指張るくぐりんぢ
張るす

人その他の中へ行く一氣に海を渡り
 する者身は應に唯だ熱の人を
 するに病疾の人暑疾は私欲の一
 体となるがごとく熱病病疾の暑
 疾を渡るがごとく親子の骨肉と
 わる氣は流るがごとく一俣の情あり
 切やこころあり母ゆびとる乳の子
 の心急痛うも母子呼吸お通ひな子
 の情あり



周の天子名損字子審賢
 人也や母とて二子に父
 後妻とてなりて二子に父
 実子の衣服は綿とて
 わるがごとく損の心を
 するがごとく若年を
 おさるがごとく父車とひり
 よらるがごとく素とて
 其れれとてなるがごとく
 て継母をわんとして損に

とありて高で云母（おはは）もさういふれとさういふれ
 といふは三子（お三子）のあつたあつたに継母（お継母）づて悔改（くわいかい）
 芳什（よし）かきと綿（わた）とさういふ貧者の服（ふく）成人（おとな）の着（き）は
 心（こころ）と用（もち）とさういふさういふ知女（ちよ）のくささういふ
 ぶささういふさういふさういふ悪行（あくぎやう）あらういふ事と
 夫（そ）の九情（くじやう）の収（こめ）の肉子（にくこ）審（しん）いふ事を恨（うら）むと継母
 去（さ）バ二弟（にてい）のさういふさういふさういふ父のいふと
 さういふ継母（お継母）の死（し）と愛（あい）とさういふ意母（いぼ）とさういふ事
 のさういふのさういふさういふさういふ父のいふと
 中（なかつ）と顔（かほ）子（こ）肉（にく）と結（むす）さういふ事とさういふ



周乃仲由（ちゅうゆう）字（な）へ子路（しりく）孔門（こうもん）のさういふ
 出家（しゅつが）貧（ひん）——て常（じやう）の着（き）の糸（いと）糸（いと）
 藿（くわく）乃（の）食（し）と食（し）子（こ）親（おや）わらういふ
 ちとちと百里（ひゃくり）の卵（たまご）と負（お）
 てわらういふ父母（ふぼ）の事（こと）とさういふ
 親（おや）没（ぼつ）——て後（ご）南（なん）の方（ほう）楚（そ）す
 けし従（したが）車（くるま）百（ひゃく）棄（す）けし雲（うみ）と積（つ）
 と萬（まん）鍾（しゆん）りや禍（わざはひ）とさういふ坐（ま）
 鼎（てい）沢（ざ）けらういふ命（いのち）とさういふ
 云（い）親（おや）のあつたあつた負（お）義（ぎ）飯（はん）と

今やんと思ふたふつが

子路へ書心強力の人なり。貪欲を生れそ
勇力あり。其ハ多ハ少ハ強と用ふと
る云通じものや。志うら。子路ハ其力
と父母の志。其ハ一。用ふ。其ハ力。の
り。す。人。ら。天質の得。る。起。り。わ。れ
人。欲。の。さ。る。不。用。と。忠。孝。の。事
小。用。い。あ。い。さ。下。へ。不。流。平。る。人。
子路の。と。さ。る。可。貴。の。師。と。す。一。



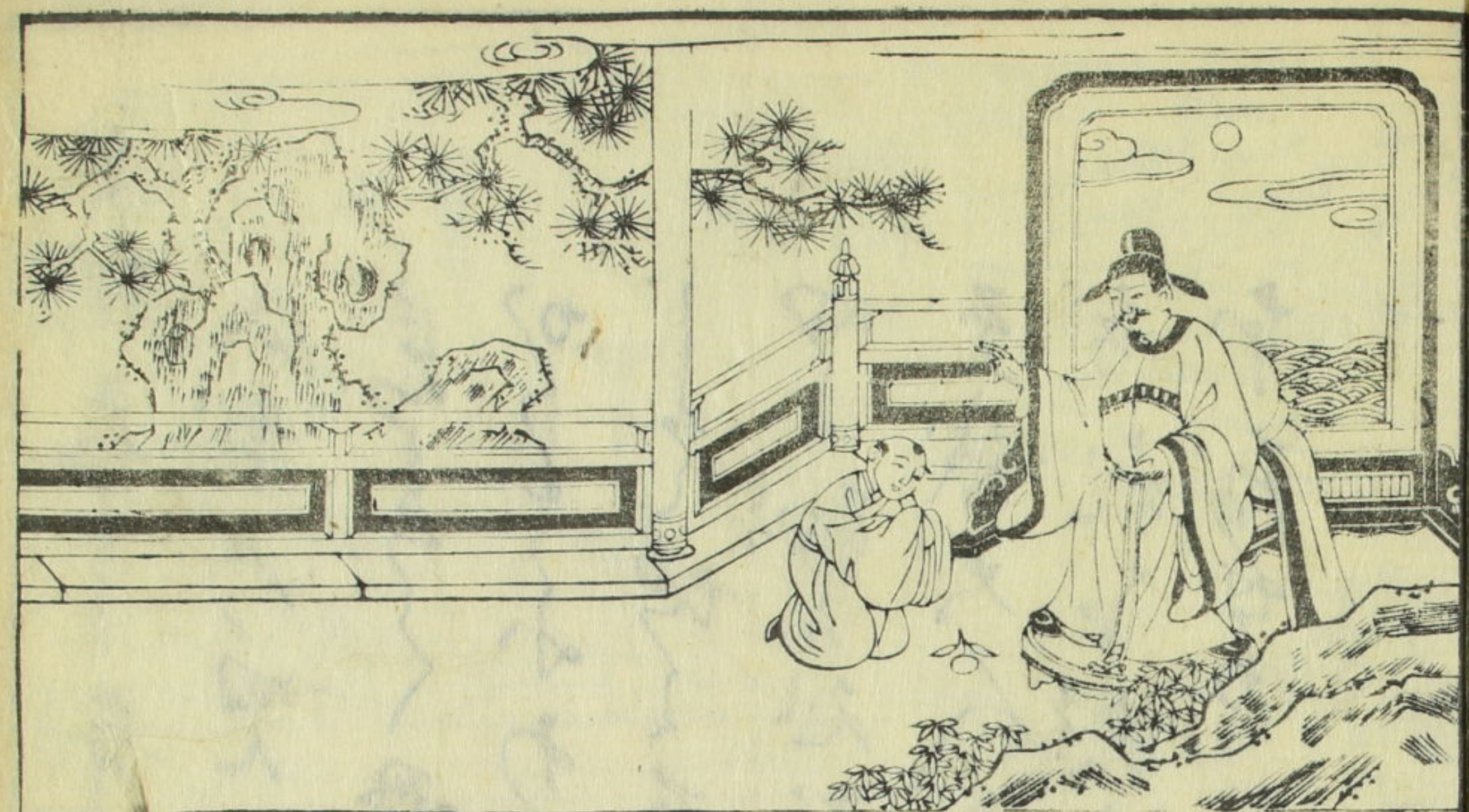
漢乃董永へ家とつ。其ハ貪
一父死。と葬へ。と物。介
富。あ。は。少。と。賣。り。錢。を
と。り。葬。礼。と。し。つ。か。わ。く
て。主。あ。ふ。ゆ。さ。や。け。と
り。と。す。途。中。一。婦。人
小。道。に。つ。り。永。が。妻。と。え
と。り。ひ。く。と。も。ふ。と。あ。い。
つ。ま。り。袂。羅。と。織。く。衣
と。累。と。一。月。小。三。百。之。也。

と有り、馬に上り、割子^{かき}起くうのゆへと
 鹿の皮は衣^う衣^いく鹿^か群^{ぐん}ふまう、つる
 へをくちやうと、まうとを鹿^か道^{みち}と
 何とまう、つるや志^しれとを鹿^か威^いの
 神^{かみ}と動^{うご}と、このゆへ、鹿^かもさけ、
 乳^ち張^{ちやう}あう、至^し誠^{じやう}得^{とく}うと、さう、
 別^{べつ}せと、小^こ念^{ねん}のれう、はさう、
 知^ちり、



漢^{かん}の江^{かう}華^{かう}や、さう、
 と、あう、まう、あう、母^{はは}と相^あ依^いれ、
 せう、あう、まう、まう、
 也^や、れ、まう、あう、母^{はは}と相^あ依^いれ、
 れ、まう、途^と中^{ちゆう}、益^{えき}城^{じやう}、まう、
 江^{かう}、あう、まう、
 老^{らう}母^ぼ、あう、まう、
 と、あう、まう、
 し、あう、まう、
 ふ、あう、まう、
 一^{いち}物^{ぶつ}、

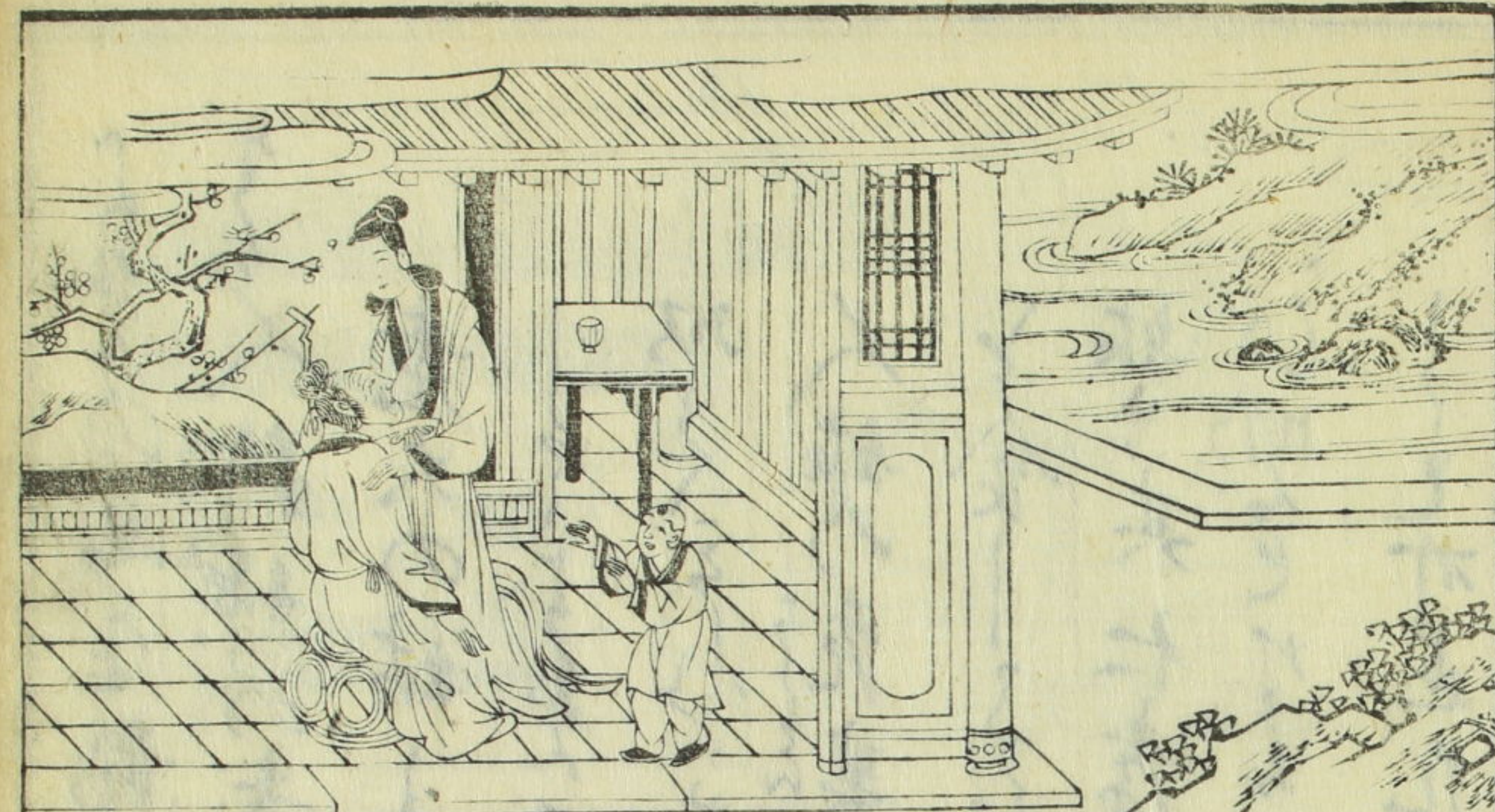
人の為ふじふとて母を孝く侍り
 処乃物皆母の衣令るなりてわ母あり
 江草身乃難と云ふも母のよりふなり
 りんとて母ありと母ふらあまんてふ
 けやうの慈母乃子にふやとてふなり
 金作の精神赤子ふあなりとて親
 の子に思ふに和應なる人皆に思ふ
 どのくうとて子の親に思ふなり
 應にふあふ孩提の母に轉るなり
 者なり



後漢乃陸績字公紀年六歳
 の時九江の袁術小兒の袁
 術橋とて思ふのあふ
 あく績橋二枚と懐中を
 ゆふふとて給ふ時地
 なるに袁術云陸郎賓
 客とれやとて物を与
 うとてふやと績はごま
 つとて答へて云吾母の
 じゆふにハゆくとて

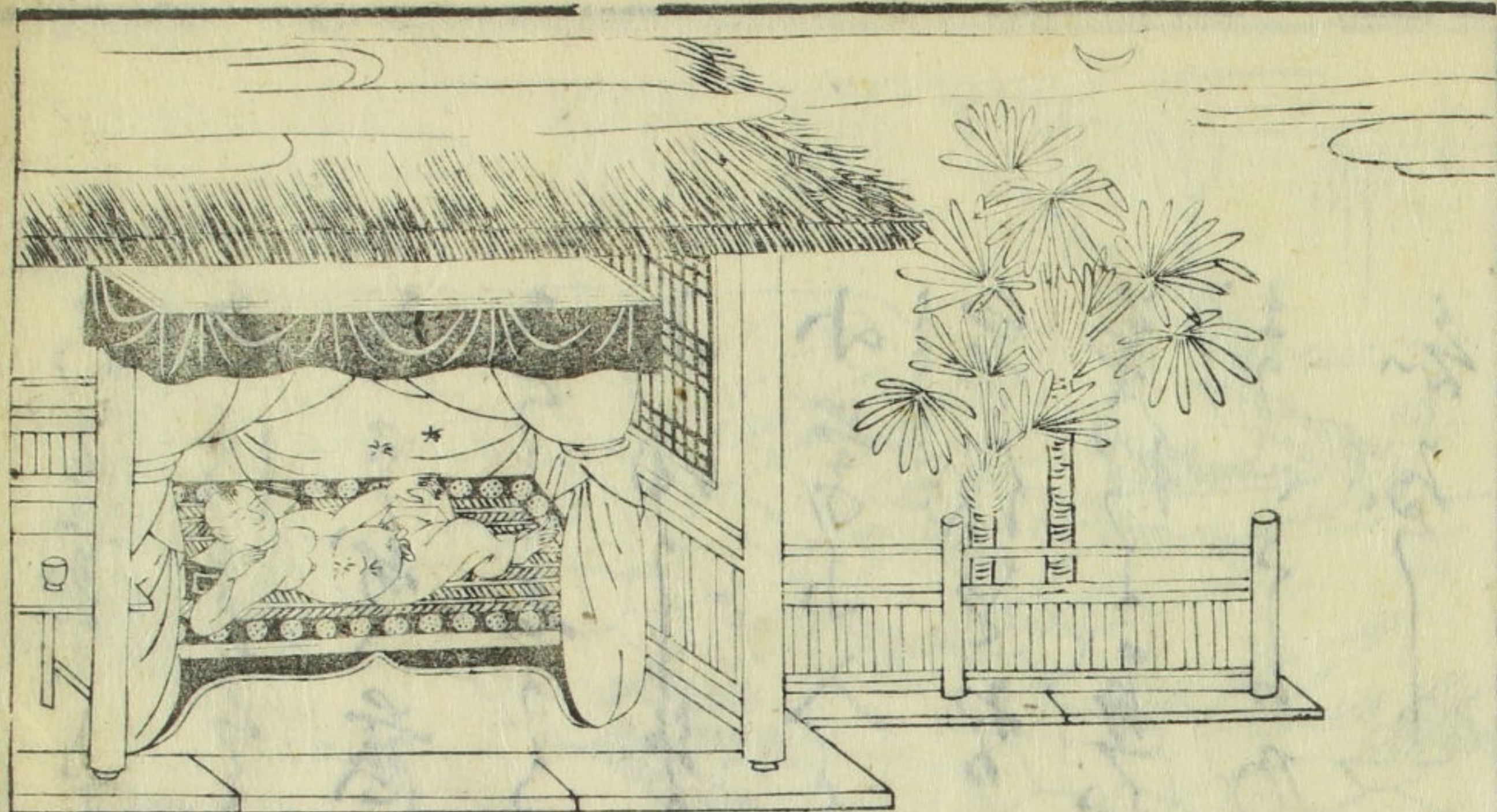
と術大ー奇なりとす

六歳乃児三つら食とるこし休
らまゝく母の性せいの愛とる事と思ふ
かゝるふわらぎればはるけく一やうに
しと地と落ぬ貴人といふけつといふ
心と恥ちりさある赤面せつめんふ及ぶす
至誠大人を感ぜしむ王性教おうせいぎょうとす
が礼と失あやますうぐさくあはれとを礼乃
中おせり



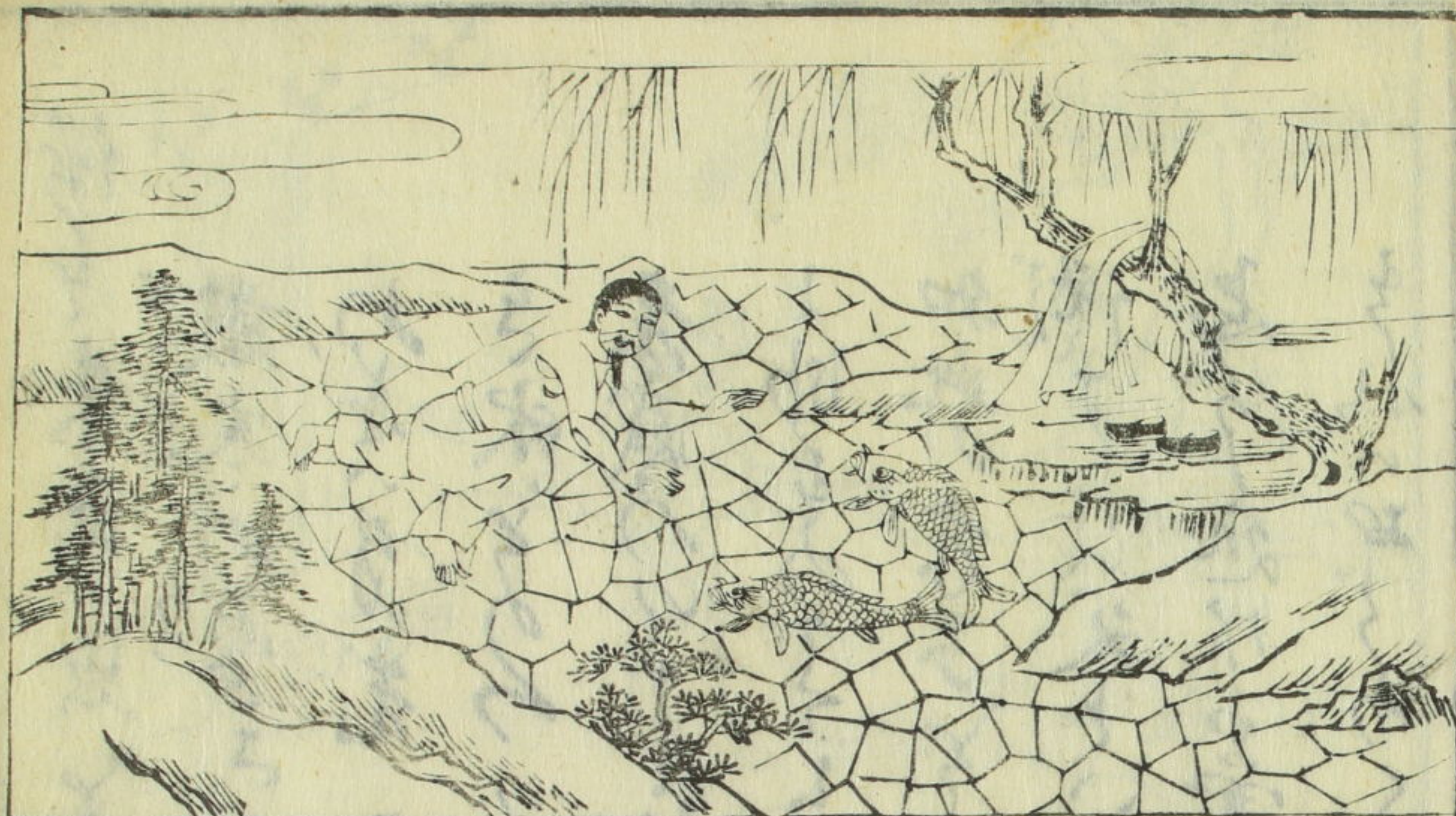
唐乃崔山南さいざんなん父の母唐夫人
姑こつゝ人て至存しぞんやあ姑と
長孫夫人也年とし高たかしと
齒は外唐夫人毎日髪かみ張は張
れとめん力ちからとさうめん堂どうと
升のぼて其姑こ乳ちのまうじ
姑粒食こつぶくやさう事教ことしやく年
あはれ堅固也一日長孫夫人
次命乃病やまひはる長知皆ながちは
つゝらけし云々第だいはれと

よき人の志を轉ずるも好むる子孫の婦
 人新婦の孝敬のしくなりし事と乳の
 老父の姑と乳と飲めば姑もまた辞せず
 しとよみん乃乳とのむと常れ人情と
 以てこれ共の心とおもひて事と廢
 人姑を養ふと云ふも兎のう常の食
 と食しこれをもて至誠と乳と飲む
 姑も其仁孝に感して辞せず老てや
 び明きなりとの言はば姑婦のう
 とこそ可也凡情の及まん妙にあらず



晋れ吳猛年八歳親より
 つく純孝也家貧なり夏
 乃蚊といへども蚊と云ふ
 べき帷帳を裁かれり
 膚ふりてその膏血を噴
 吳猛親のうらやまを
 うらやまを不驅也と云ふ
 まく親の身おろす
 といひ悲しむ也
 よの常れ人へ親の事

りる事ふ中心に悦びて其の如く
 也に悦びてつづきより其の如く
 とふが慈母の愛より其の如く
 るふが慈母の愛より其の如く
 ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
 小童ふふふふふふふふふふ
 宮城と名のふふふふふふふふ
 善行ふふふふふふふふふふ
 まふふふふふふふふふふふ
 知る



晋乃王祥字休徵もわく母
 と其の継母朱氏慈あつて
 父のあは祥不孝といひ
 諍ふとてひきかへて
 りて愛ひてふふふふふふ
 是より其の母生る魚と人
 も其の母生る魚と人
 氷はふふふふふふふふ
 衣はふふふふふふふふ
 て双鯉躍ふとて其の如く

傍と朱氏しうしの思と慰なぐさて様やう心こころもまゝに安

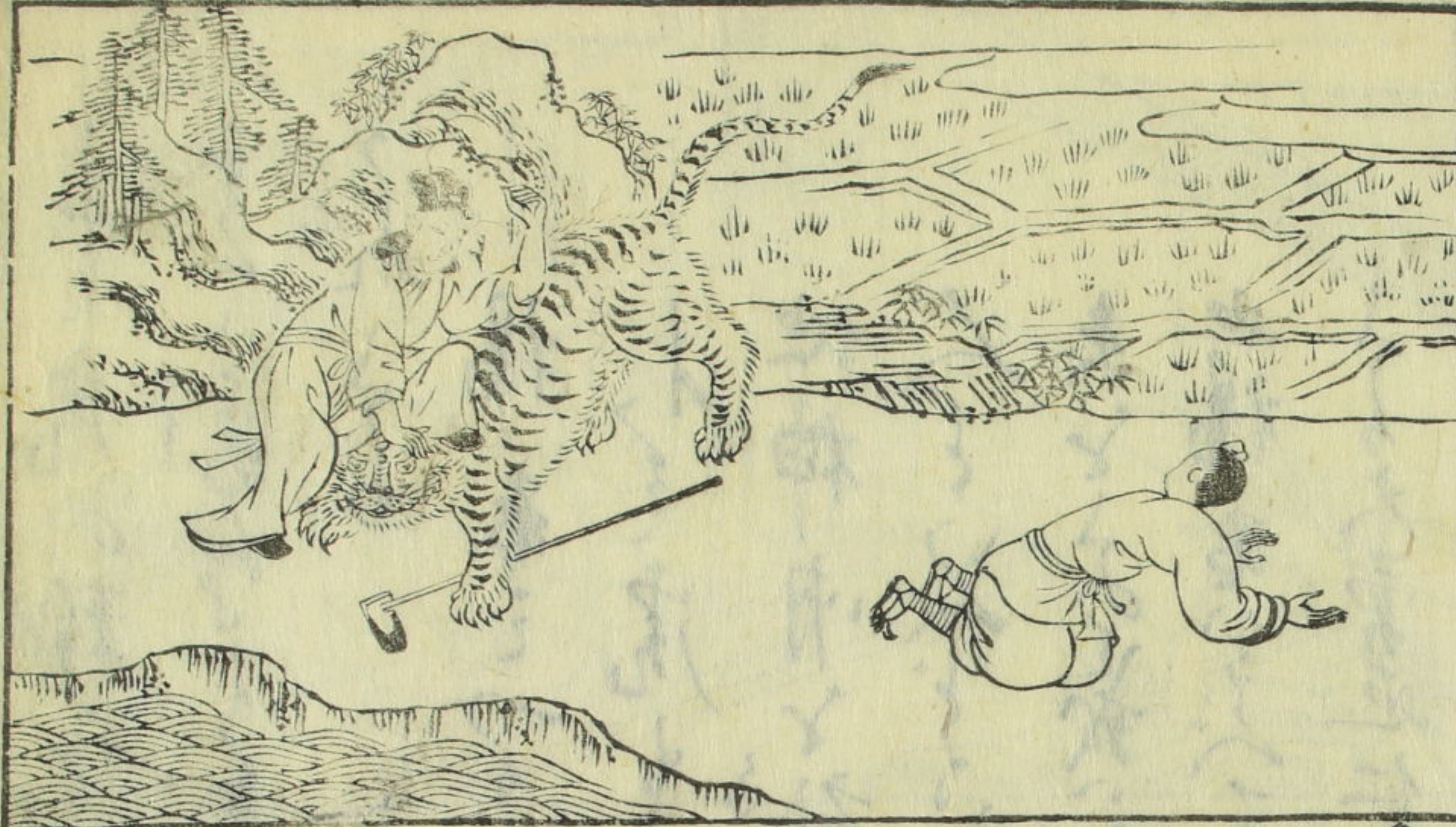
嚴寒の厚さ氷八人うさそぐま落つて衣
 をへり先ふぬ氷より何う解へ
 る氷とのう解て難事至誠心と効
 孝感うつと知也とよしく河水の上一氷
 玉ゆきあううまると晋の王祥天下一人はあ
 知此の孝子とふ継母不存れ事とにぞと
 信すれ父といへともふと信す孝子に信と
 あう知りや曾子の賢と母の信わらふ三六
 ちれいゆうく後人何う思ふや



漢の郭巨、貧者なり。三男あり。笑
乃曰、何れ巨が母、この孩を愛し
て、ふくらみの食をわくらふか。
郭巨妻は告ぐ云、貧乏か
まふ母は供する事、男よりか
かうするより、又母の食を減る。
此子活埋んふか。とて坑を
掘くと、三尺なり。乃て黄金一釜を
得る。おとよは部して云、天賜郭
巨と奉り行くら事なり。とて民

奪しつゝ父母が

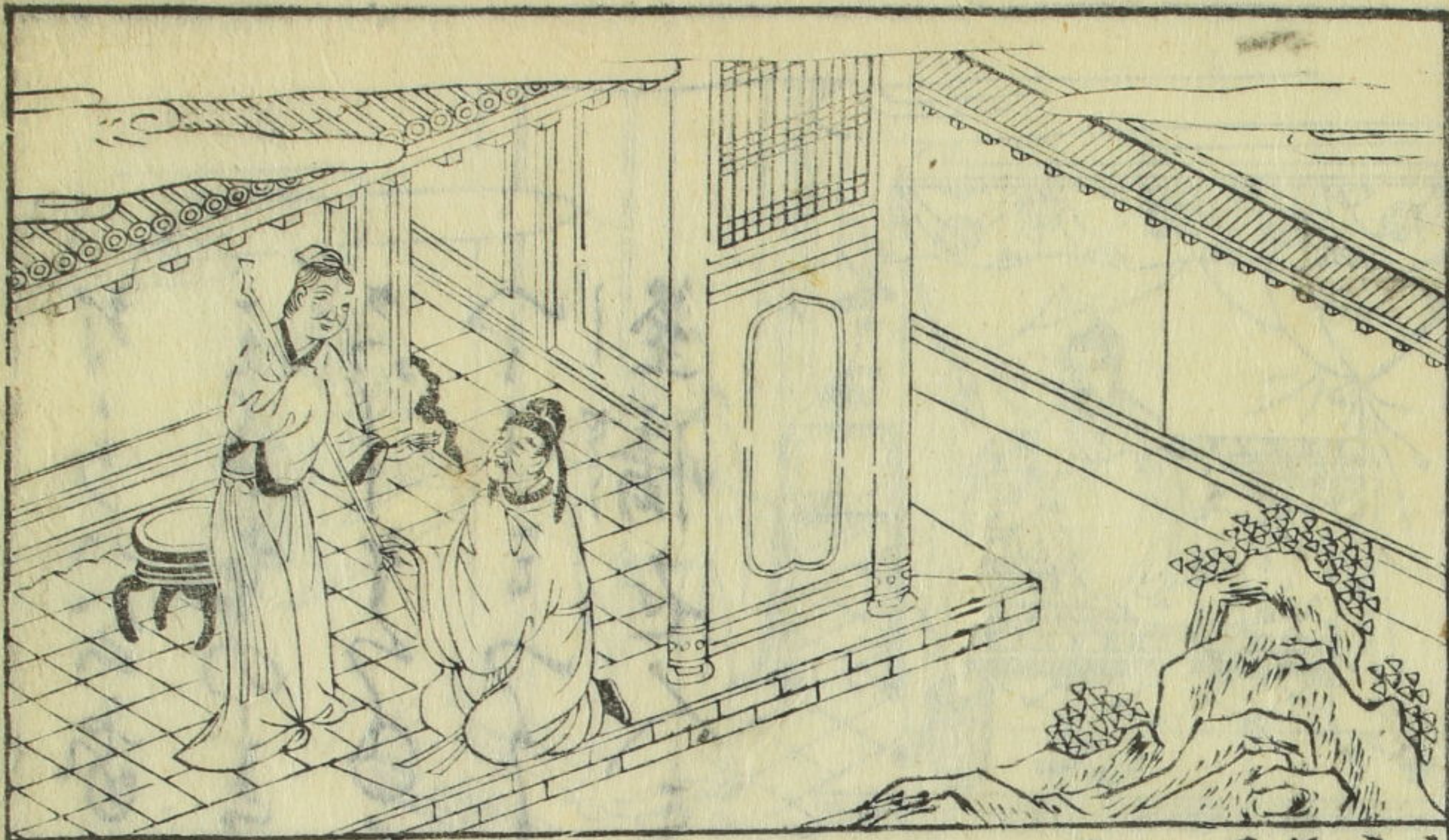
祖父母の孫を愛しつゝ命をもらひ當なる
 やさしい心初めらる時父母を志しし法
 ていふまゝに愛し父母を見守る目よ
 一ふらに郭巨の親の害は害はらふ
 三里本の田と云ふ埋りし初めれ時父母を
 志しし心よふくふく物りとの心を志
 妻又同心以徳しつゝ志しす天下この妻
 婦の志はあはれとも古今又なりとなすの
 けつ金六量の名六升四升也



晋陽楊者年十四歳の時父ふ
 志しし心よふくふく父の志
 粟と獲る者なりを志し
 常ふ力よ志しつゝ父の力
 と助け付は虎を志しつゝ父
 を志しつゝ父志しつゝ父
 弱しつゝ父志しつゝ父
 と志しつゝ父志しつゝ父
 志しつゝ父志しつゝ父

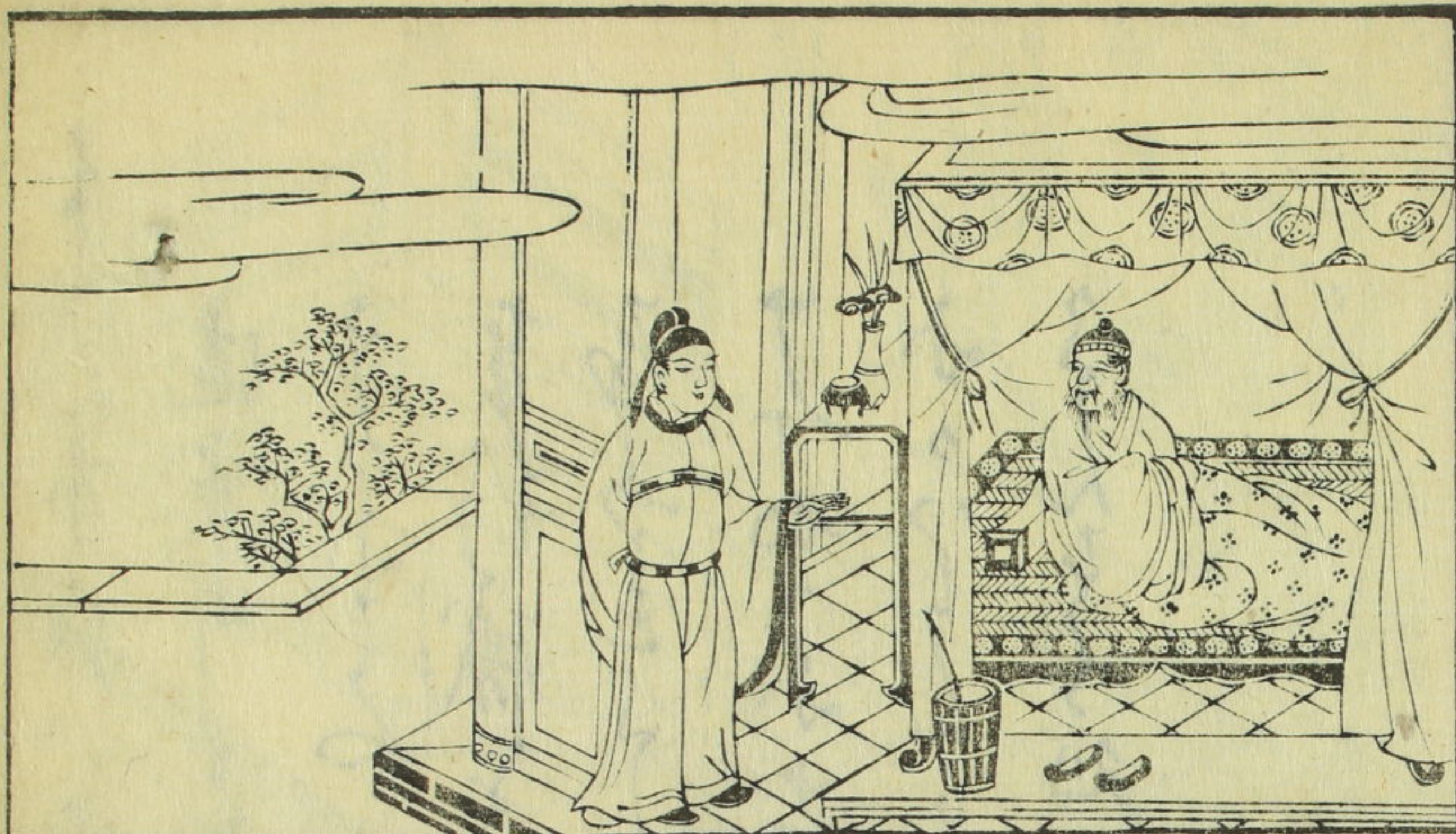
虎の頭を撫り虎もにびくず豊と
 してあはれんてまふ言とまふ
 へん

楊素こつろろと事と
 虎も勇猛とすくまふ感天
 地神明と効と古今武勇のやま
 人とも或ハ勇力はもの或ハ利刀
 矢とふ或ハ知謀とふ或ハ勇力とふ
 也楊素こつろろと事とまふ
 大勇也仁者必と勇はとまふ



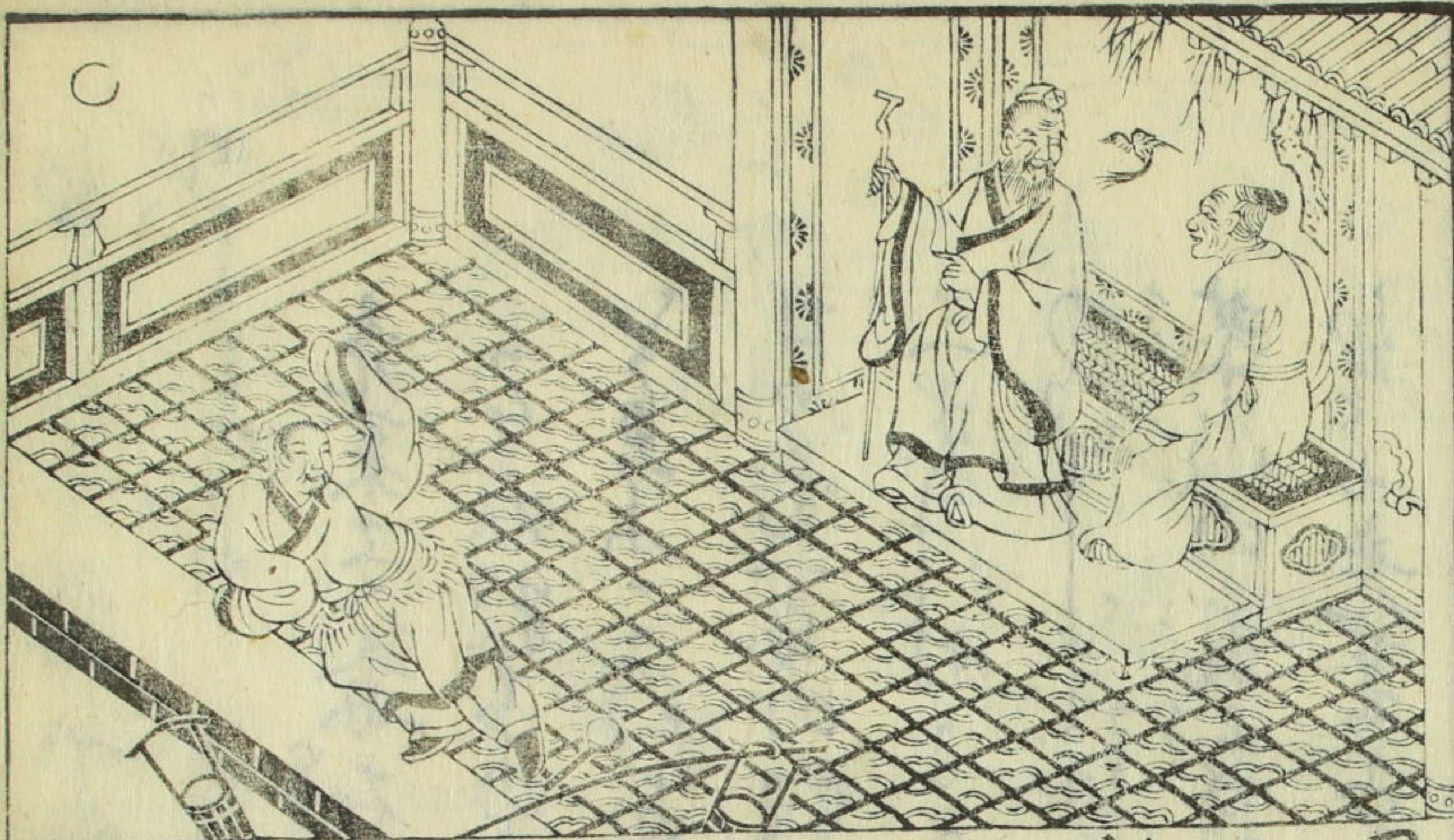
宗乃朱壽昌ハ妾の子なり父の
 正室と母とす七歳乃時正
 室壽昌ハ母と池市ハ部
 嫁と相不知と五十年也
 神宗帝の時官位と
 秦乃地ハ今く生母
 劉氏と尋ね母を戸とハ
 不ゆとらふ終と通と
 時ハ母乃年七歳
 朱壽昌ハ我朝乃いり

たりハ公家の〜武家乃依〜
 といふのまゝ〜小同〜家人と云
 ふ〜さうしてやまら〜といふ人々
 へ〜こつ〜官禄と去てさうわりの
 至情を人〜とす



南齊乃庾黔婁（いんせんろ）は〜
 陵と云ひ令〜
 十日〜
 身汗〜
 云病乃輕重〜
 黔婁〜
 心〜

ろうし事成いのち父終は死すや
 遠方ゆく病を告る者つすこいし
 うふやく父の病れ死すくと知て
 孝の職と稱し官禄とすうこと
 辱むまじくまらうのぞくうて
 丁やふちやうゆまの墓とかな死
 ふうしんし孝心のまゝ人情の
 ろんそく心や



周乃老萊子、至孝のさうしわ
 二親はも孝をうと其
 其美とさうじ行年七十
 歳して老うては
 父母の在るをりか家は孝
 けいしは又色のもあやうけい衣
 とそふし一嬰兒のまじしと親
 のうさうしよりせもけいけい
 つまうそはまづいさうま
 嬰兒の啼とけいす双親は

けりて婦人春秋終夜臥初き喜色の
 四よそわ

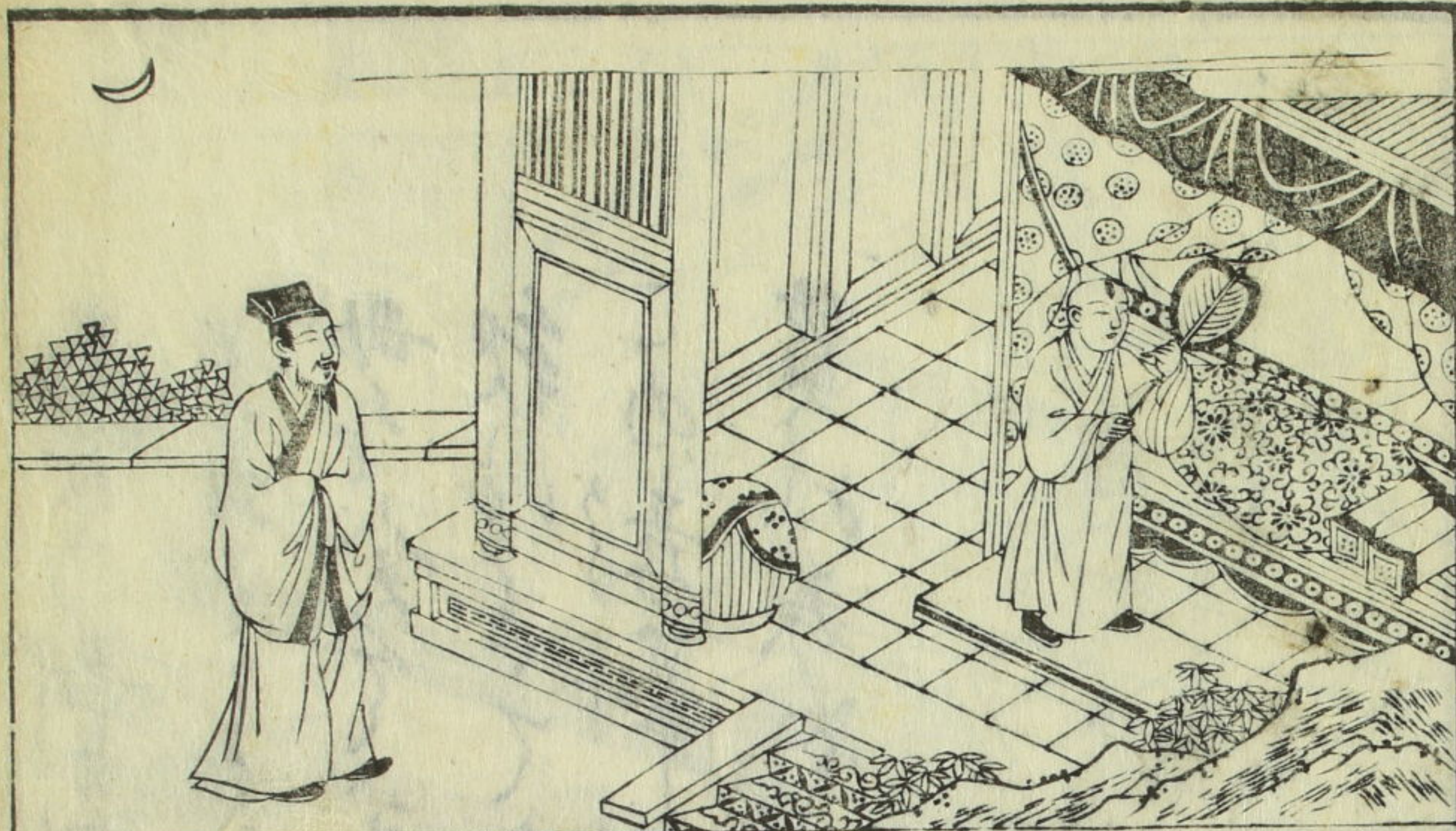
老萊子（おれいし）は母在言不（いまは）補（おと）老の礼と云ふの事あり
 けり双親子の老をふて心感（かん）慨（がい）ありけり
 と云ふころあり又色の衣（き）嬰（えい）四の戯（ご）と云
 昔は二日の狂言は此の年を父母と云ふ事
 三載（さんざい）の時より長けりけり父母の心より又孩提（がいだい）
 のころと改め又神の凡情（ぼんじやう）は親に向て自心（じしん）
 恭敬（かうけい）の氣象（けいさう）は妻子朋友（しよしづとも）ふへきことと云
 けり老萊子ハ常人ト云ふは父母ハ此の事あり



漢の蔡邕（さいひ）幼女の時に父と失ひ
 て孤（こ）となりけり母は年々て
 至存（しそん）けり時は王莽（わうまう）が乱（らん）ありけり
 年より又凶荒（きゆうかう）あり母は供養（くやう）
 と云ふ物あり桑（そう）の葉（は）を食（く）ふ
 黒（くろ）と云ふことあり又盛（さか）衰（し）
 眉賊（びぞく）と云ふ怪（あや）でことあり又呪（のろ）り
 云（い）ふことあり母は年々て老（おい）ありけり
 のころより又食（く）ふと賊（ぞく）と云ふ
 わりけり白米三斗（さんとう）牛蹄（ぎふ）一

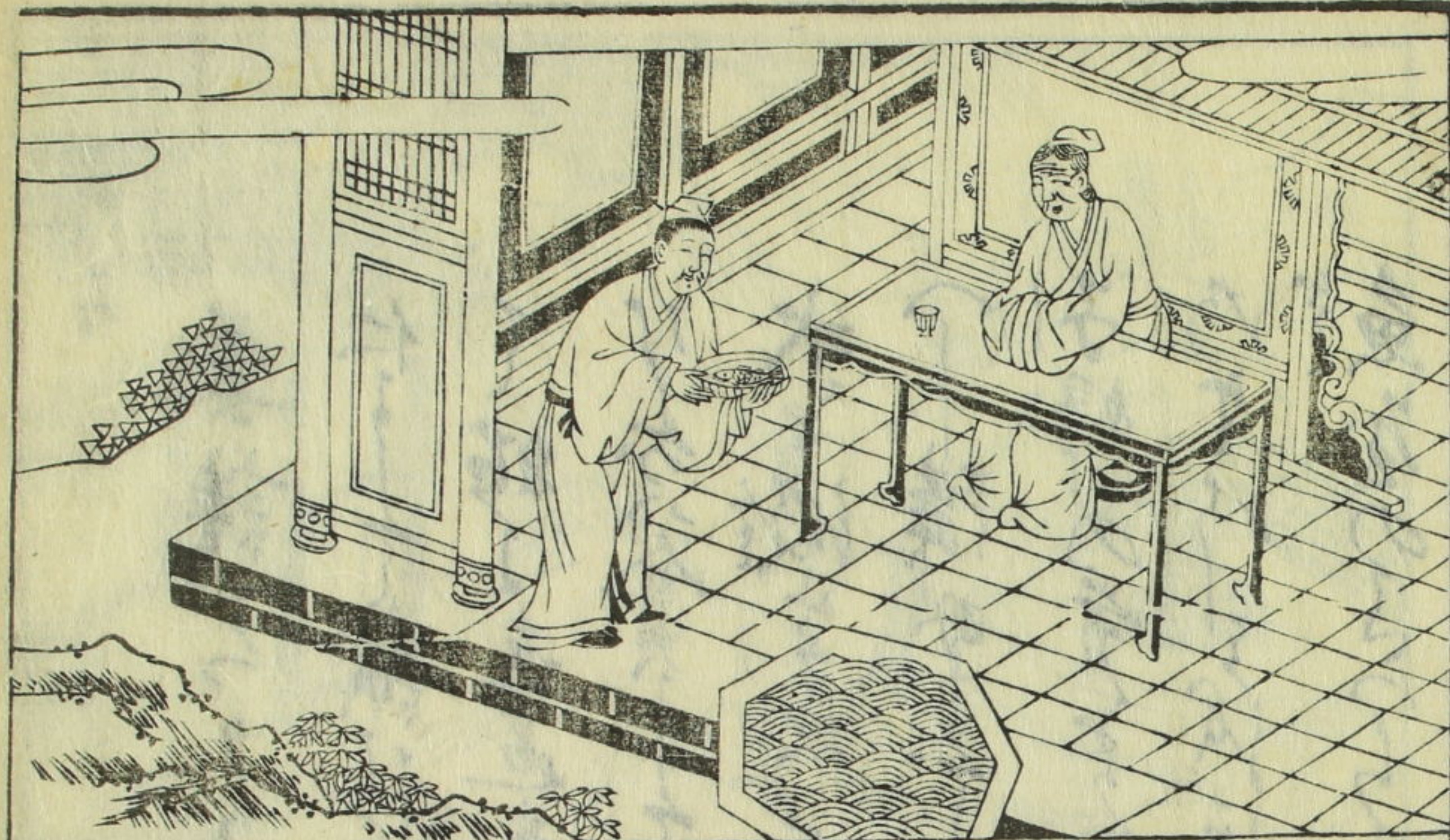
隻とよふ

葉のこれあつたものハ味申くあつたものハ味酸
 しいものあつたものハ味申くあつたものハ味酸
 供あ全體の精神親のよふはつたものハ味酸
 ころ味を好じしものあつたものハ味申くあつたものハ味酸
 て他の常々知れいしものあつたものハ味申くあつたものハ味酸
 里者無小わつたものハ味申くあつたものハ味酸
 ちる事外知らず其誠と感ず有通乃伐ふ
 生れては不愛とけしものあつたものハ味申くあつたものハ味酸
 かなとらんを性す後人けりあつたものハ味申くあつたものハ味酸



後漢乃黃帝字ハ父強年九歲
 乃時母を失ふ思慕しやま
 ず里人こち存と稱し父事
 至存也夏を案暑の夕ハ
 父の枕とけりるものと扇を涼
 しく冬月を天の夜ハ
 身試以てあつたものハ味申くあつたものハ味酸
 せむ其他のけりるものと
 了太守劉護奇なりとて
 こち存と表す

九歳の子勤^{けん}を執^{しつ}て子^この儀^ぎ
 とあやしく^{とろろ}教^{しやう}を^がれ^いて^いる^いは^いに^い
 母^{はは}を^を食^くて^い父^{ちち}と^と痛^{いた}う^いけ^い日^ひを^をび^い得^えて^い
 親^{おや}ゆ^いさ^いて^いる^い子^こは^い日^ひを^を愛^{あい}せ^い唯^{ただ}
 この^{この}孝^{かう}事^じ從^{したが}う^いと^いれ^いる^いて^い天^{てん}
 質^{しつ}れ^い美^みや



漢^{かん}の^の姜^{きやう}詩^し母^{はは}を^を事^じて^い至^{いた}る^いや
 妻^{さい}の^の龐^{ぱう}氏^し姑^こを^を事^じて^いと^い茶^{ちや}
 謹^{きん}む^いの^の母^{はは}好^{この}く^い江^{かう}水^{すい}と^と飲^のむ^い
 龐^{ぱう}氏^しの^の姑^こを^を事^じて^い江^{かう}中^{ちゆう}に^い水^{すい}と^と
 汲^くく^い姑^こを^を事^じて^い勤^{きん}勞^{らう}と^と
 う^うつ^いど^いく^いて^い喉^{のど}に^い又^{また}魚^{いさな}の^の膾^{かい}
 と^と嗜^しむ^いの^の姜^{きやう}詩^し母^{はは}を^を事^じて^い至^{いた}る^いや
 の^の膾^{かい}は^い作^{しやう}の^の母^{はは}を^を事^じて^い隣^{りん}母^{はは}に^いて^い
 其^{その}の^の母^{はは}を^を事^じて^い至^{いた}る^いや
 泉^{いづみ}の^の味^{あじ}江^{かう}水^{すい}の^のう^うと^と日^ひを^を双^{さう}裡^り

躍る

姜詩うらう母は孝けらのとけらしき妻は
 仁うして誠は此有らう其の志はあつひ
 て姑は孝也夫婦が業とほよりて衣念と
 りかへ貧うしては海ありて仰也あうふきく江
 水と波生魚と求じ母は嚴うて心けと其けら
 一隣母までとよびうらうをわたりて
 子婦の勞とくわふす夫婦はふいふやあ
 りせしうは恒とす至誠と他と動う江氷經
 魚屋のうらうは生る古くは夫婦のうらわ



魏の王褒親の事して純孝也
 母存日雷声と怖らうてふ
 没して山林のりふ葬る雪声
 と家より疾風極面と
 と墓一少の奔て祔跪し
 泣て告ぐ云褒うふらわ
 せうう事けられと其心母
 と死せわとせと父へ司馬昭
 りふ殺うう漢晋てうと一統
 と王褒は力西に向て坐せ

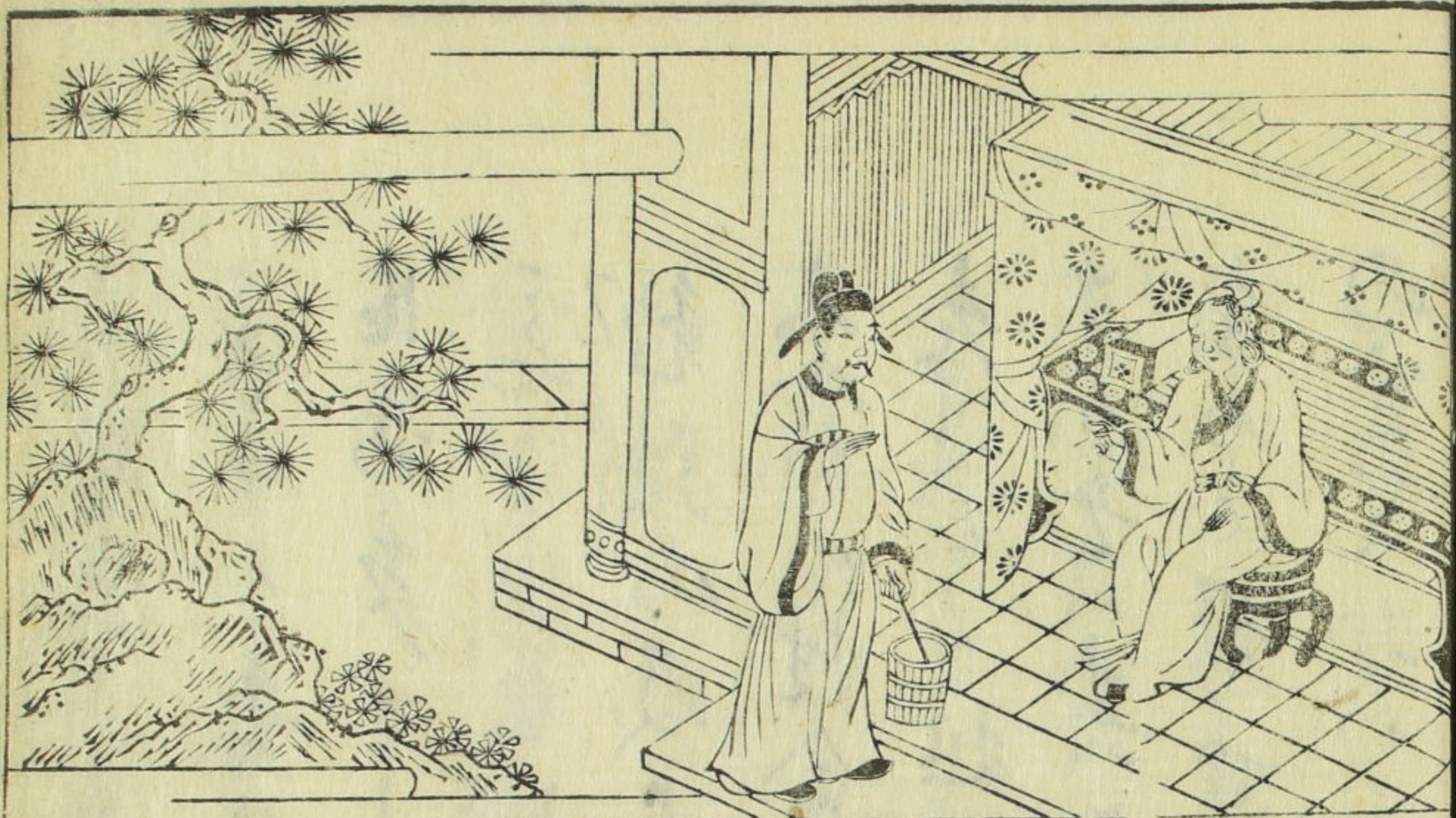
その実を記し去

丁蘭懐哺養育の恩と報せざる事と恨
二親の本像と堂上どうじやうに列はらし朝夕あふ生る親
を孝行あやうせし本像と主として
終る家なれ座より蘭の本像より
と氏志とく生る事なりや妻父本
と以て人なりあるべき事なり
む像に括くわくる本なりとも蘭の孝行生る
よるなり故に生る人の應あやうは信の如
きなりは神なり



晋の孟宗字の恭武は母を
侍ふ父を養はれて孤
母老て疾有り冬月
乃り母を令あやうせん
人かれ乃り人さふ
竹林に往く竹と抱いだて泣
き母を感あやうし頃あやう史あやう地裂
て竹の子數あやう莖あやうあり母
病あり乃り母と好あやうて母
も少令あやうれ乃り疾愈あやう

天れ物をなすま生る夏長秋收先
 冬藏を冬乃閉藏の時、當て盛に
 四五月の華を思ふも、いと得へる家
 常小意の先づ、自ら親の親
 とて、ふとふと、ふとふと、華の得
 つまじく、ふとふと、ふとふと、
 無心、ふとふと、竹林、ふとふと、
 一孝感の神物、良菜、ふとふと、
 不測の理や



宋乃黃廷堅山、ふとふと、
 祐中、ふとふと、
 篤存、ふとふと、
 母、ふとふと、
 毎夕、母の溺器、ふとふと、
 妾のふとふと、
 榮顯、ふとふと、
 ろれ人、早賤、ふとふと、
 八士、君子、ふとふと、
 少富貴、ふとふと、

三才より一才が苦なりと云ふを
 一才する者ハ徳の山谷富貴にして
 臣妾多しといふも老母は事て
 三才に至情（さうじやう）とあるから性（さが）の徳にて
 勉強（きんきやう）の及ぶところよりいふ

大舜ハ性命乃父母ヨリテ人ヲ行フカ大
孝トモシク起ルモ父母ノ命ヲ殺スんと
すル者ハ其中心ハ非テ象^{チャウ}ガ殺^{コロ}し得
ずと云フものも後來のまじくひかり
の生ておつともと思へくはなれどもさ

君は男ふらひに過と文已悪と拵
 悪人の常然りお知とて守るゝ一點乃
 明不亡るなり兄と愛とてお家
 ちう通に乃おふ舞其異ふありと
 張信ひるふ唯自己一團の王理のこ
 うして一毫乃私色なりとさうゆふの性
 命と父母と兄弟とて後世の女
 悪と思ふてお知つて悪をくゝして
 善と知るゝのふりお成回然々人不
 招此意ハ舞力と脩め善と知て

父母弟と薰^{クニ}蒸^シ——て心^{ココロ}は恥^ハわらう
 茲^{ココ}惡^{アク}とらげ——うさうとの義^{ヨミ}り云^{イハ}舜^{シン}は
 そ心^{ココロ}はわて父母^{フボ}の惡^{アク}と見^ミえこれ
 とはさあんなるは薰^{クニ}蒸^シ——て女^メ妙^{ミョウ}よ
 らさうあひるまを——泣^{ナク}しんやま
 あうらも其^{ソノ}惡^{アク}性^{セイ}は激^{ゲキ}——て化^カする事
 わさう父母^{フボ}弟^{テイ}乃^ノ衆^{シュウ}惡^{アク}と見^ミえうめは
 心^{ココロ}はわら薰^{クニ}蒸^シするうさうは他^タ——
 見る起^キりあうこれ孝^{コウ}成^{セイ}也^ヤ——兄^{ケイ}
 するの愛^{アイ}とる——雞^{ケイ}鳴^{メイ}て水^{スイ}を皆^{みな}

善哉あり。懐と書ひひつとにさうそ父
母あり。女姦ととつめねす。さう一ね
はさうと。是と薰魚して刑罰一
落入の大悪と。さう一ねはす。とわさふ
る。処乃ある。一りお舞よ。けさ。りるふ
あり。すり。舞姦と。らん。と。さうしふ
さく。心あり。と。舞と。す。ら。さう。さう。じ
一陽明子。れ。郷。よ。父子。訟者。り。陽明
子。れ。を。く。ま。す。お。入。て。云。舞。と。
う。れ。世。名。大。不。孝。の。子。贅。腹。は。う。れ。世。る。

大慈愛の又や舜ハ三つ三つ大不存
の力と見へる故より不存也瞽瞍ハ三
つ三つ大慈愛より三つ三つ子より如此
一歳長ぢしと我ハ不叶ハ不存の
子なりと思へる後書乃みふふと
るくことと不知こ乃ある不慈なりと訟
者父子も彼おとる泣く去又云人
の大病ハ一の傲乃字や子よりて傲
と不存也臣よりて傲と不忠や
父よりて傲と不慈や君よりて傲

と不仁也又よりて傲と不信也
少人の聖賢諸乃好人の名喚云と
処ハ一の無我なり我ハ則傲也我
ハ乃ハ謙ハ乃善の基百福の
始とる処ハ傲ハ衆惡の財禍災乃源也
舜の大孝大知一乃無我より大徳と
せらるるや同孝經云父有年子則不
陷於不義如此なり時ハ此ハ三つ三つ
三つ三つれと見まといさじとる小
不見不格といふん云惡なりと

善とゆふはく——新ハるハ其心
自然の事やしもく相叶する父子元
来ハ常の事と云ふれいふらん其ハ
あつらん乃相談は各の良見多し
和らるゝ其よりさふあつらん師弟
朋友君臣皆あつらん事多しとて
其和を云ふていふ事を忍ぶ事と云
や父母弟ハ不和くつゝと云ふ事ハ孩提の
時の和を不失父母弟の御人といふは
まゐへく刑罰はらへ入つてやけらるゝ

あつ時ハいと云ふ人ハ性ハ一旦の心得らるゝ
と云ふて常の人ハ思ふといふ
とくくそハめばその始りらん——其我
と殺らんといふとも云ふ事ハあつらん
何の事悪くといふ事ハ思ふらん
父の中心如此なり我亦子孫提ふ
事ハ云ふらん成長せしめやと我
と不悦有ハ我不孝といふ事ハ始り
終る頑固傲と云ふ事ハ常ハ思ふ
処事ハ董永王祥郭巨子平宗の篤孝の

しるさるる各一人也平人凡情の及
しむ妙は非ず至誠ちの感く天下
古今二つ行くと神應は孝子此情
とほくせむ妙とあくはいへさやほ
あふれと父母とあくは或は情欲乃
父母ははく人或は体の父母と奉養
るよるが故は天應も又祓女をば
厚氷とくし魚とあくし金と
さまひ寒筆紙生し紙のそ大筆
とあくは徳聖人とも天子との富

海とくし寿百有餘歳子孫一カ々
乃大福とくし明君は諸臣とくし
竹ふも如此一事くのまふは
者よはうなりとくは貴祿とさまひ
才徳衆よとくは者よは高官大祿と
命せらるるあつたはと人ハ百歩の外
は射が如し舞乃孝ハ黒星ふあつた
とくは地乃孝子ハ的は當るくふ
ら矢まるとゆつと有る及妙は性
とくは目當とくは黒星けり

故は後学の人の大業と師とす人
其天よりまゝの処の志とす人
とす人とも天性命の父母とも
一と後来の情欲と父母とす其
目よりみくとも心とす人
悪人ともさへ人ともす人
とくふ人ともさへ人の苦心とす
一父母平人なりとも好人とも
人とも好人とも親とも師とも
也同輩永何と以く口体とも
云喪祭の家乃有無と志す人
乃精神と志す人の志とす人
乃子の一生涯人の志とす人
と何人親の心とす人
と以く人とも先祖とも
とく親とも志とす人
りし処も皆親の志とす人
あり一親の心とす人
人とも一親とも又志の罪人
なり親を志す人

云喪祭の家乃有無と志す人
乃精神と志す人の志とす人
乃子の一生涯人の志とす人
と何人親の心とす人
と以く人とも先祖とも
とく親とも志とす人
りし処も皆親の志とす人
あり一親の心とす人
人とも一親とも又志の罪人
なり親を志す人

妻子のりて共々孝を盡し葬も産
とやがうらんやと乃分るる一董永
小とわくハ天質の養や神明と感
動するの篤存りしはつとてやが
其時兩位の勢も後をよみ念る
のられ人の手におはりて事や
世々の人親の力を我力のよく思ふ
者なりハ大孝のより有る一董永ハ
我力よも親の身と愛せむ妻子と
人の欲する処がよきと親を養ふ

小さく有る思ふもよく思ふ人乃
やはるる事ハ人のよく思ふや
と親の葬の為ハ一生のやはるる
うけみかん情のありて事ハ大
力量の人といふも及ぶに処や
とハ愛する一董永ハ孝の
が後来の情欲乃父母は事と云
継母祥と不孝といひて父は
と父は失くしては母は
小と不孝なりやゆは如此と

継母は徳とてうきやど継母は孝行欲とて
 おあらずとてあつて孝行といふおと
 へとも祥ハこそ世をどうするしとて母
 ももりて孝行やも故よ母生魚と欲
 といひは親と叶へるハ不存りよと魚
 ひく其得るこそ紙分別やす至誠よ
 こゝろを求む其志の篤く其義称するふ
 こそ繁るし神明の灵感といふおと
 がふこそ志ハ愛もく慕ふこそ事ハあり
 ひくし嚴寒厚氷乃時食の生魚ハ富貴

乃人れを秋より冬くくおん事へ志す
貧賤の者なり 俄に川は深人なり
やりりうの中へ海遠く海の色も
天子諸侯といへども用ひたらず
川澤より来るものや 嚴より衣衣が
きりぎりす火紙用ひるに居る
志すともさうあり 厚衣より大病を
免るなり 此身祖父母より傳へる親の
口体の欲は為るに生るに中をそとに
親へ不孝の罪人や他人よりおこす

心わら者人のいそをいそがしむ事
あり父母の中心何ぞいそがしん玉
祥もあらそは是非を論しそは
世の人これといふとせし後來情勢の
父母は事小流どづ——問郭巨といふ
云一家の至味と調て親よりく吏婦
へ廉食を食するは子の志りの親より
法と愛しそく食はしそくを成せし
ハ親乃志りの中心慈仁の発するよりそ
うつらハ体の嗜欲をわきまきそのや

多に親の中心は唯
 至味をうむるに在り
 独味のせりふ子に殺さば親の中心大
 小痛じなり——此れもよくよくとらへて
 何れも志すれども全神の精神親と愛
 敬とをふりあはせしめんとす——此れもよく
 要又父の心は順後——そとにありて天
 下古今衆人の及ばざる処なり道理は
 あり——ハ学問ふるなり易——郭巨が
 篤孝ハ老師大儒とくとも其十一

と得るものか——神明の具感（其至）
誠純孝の心ありて事ふはらう子
者も又その心を学ばう——郭巨が親
わらうと試みて已と妻子ありて試
不知の者といふ福あり——孟宗（まうそう）
云冬月の生（せい）草（くさ）へて子（こ）大樹（たいじゆ）といふも
得てと不能雪中ふりてんの死といふ
うらううと——そといふありてても付あ
うら物なりと念ふへうら子無病の人
なりと悲（かな）し——況や病人とやけ難い

道理よそむくは性命乃本心ありて子（こ）
なりと求めたう——そ付ありてされと
求む——うら子なりといふありてても念ふへ
うらうらの道理をたゞ終へ——孟宗（まうそう）平日
其家ふ得るは物をも親（おや）に
子（こ）才（さい）のさうくすなりうらうら物（もの）紙（かみ）も
求め出しと供（く）ぐれと其（その）さうく常（じょう）と
なりて筆（ふで）とも親（おや）にふりて——時（とき）なり
うらの物ハ毒（どく）氣（き）ありと——とてこれ（こ）れ孝
感（かん）の物なりハ良（よ）菜（さい）なりとて病（びやう）忌（い）

至誠と感ずる道理ありて平生
も人の及ぶことなき孟子の誠といふ
て不^ふ得^いざるの補助ありて至誠
無心の意ありて天地と動し鬼神と
感ぜしむるの事なり此の孟子は在
ては是非を悔むべし其誠を以て
人の性命の父母と爲す情欲の事
れあやまらざること誠といふこと
なりといふこと君子といふこと
さるものありきなりさるれ存子、

孟子の家と治へりて舜の父母は
悪人なりある存子乃名はる感
あり舜の父母と董永王祥郭
巨孟宗の父母の事なり
存子の事なり感も有るあり
君子乃道徳ありて存子乃名はる
や他の聖賢も存子の事なり
同じありて存子の事なり
云其位々其分々不^ふ應^いて家業は
失ひて存子と不^ふ亡^い子の事なり善人なり

父母の心を安^{やす}むとて無^む用^{よう}とす人孝
經の五等^{ごとう}ふは孝^{こう}と悌^{てい}と慈^じと敬^{けい}と
紀^きと存^{ぞん}なりへまろ^ろう上^{じやう}古^こ乃^の代^{だい}の事
や末^{まつ}代^{だい}は毎^{まい}う^うく日^{にち}布^ふやわ^わる^るう^う
い^いん^んと^とま^まし^しハ時^{とき}勢^{せい}人情^{にんじやう}大^{だい}より小^{せう}れ^れあ^あも
ろ^ろう^うの上^{じやう}古^こハ上^{じやう}質^{しつ}素^そより下^げい^いく^くあ^あ
一^いく^く男^{なん}女^{にょ}共^こふ^ふ人^{にん}のや^やは^はと^とな^なり^りて^て出^でる^る
者^{もの}と^と時^{とき}二^にろ^ろあ^あふ^ふ子^こと^と婦^ふと^と父^ふ母^ぼふ
は^はふ^ふへ^へま^まふ^ふ人^{にん}な^な一^い世^{せい}の^のな^なら^らう^う
無^む始^しと^と此^こる^る如^{ごと}い^いの^のと^と思^{おも}へ^へは^はと^とり^りて

は^はせ^せら^らふ^ふ非^ひ分^{ぶん}を^を上^{じやう}に^にこ^ころ^ろに^に
あ^あら^らふ^ふ親^{しん}子^こ兄^{けい}弟^{てい}離^り散^{さん}と^と男^{なん}女^{にょ}共^こふ^ふ
人^{にん}の^のや^やつ^つと^とな^なる^る者^{もの}多^{おほ}し^し一^い父^ふ母^ぼ共^こふ^ふ
分^{ぶん}に^に相^{さう}應^{おう}は^は奴^{やつ}婢^ひと^とは^はう^うし^して^て子^こ婦^ふと^と
つ^つづ^づく^く此^こ方^{ほう}久^くし^しと^と常^{じやう}と^とな^なる^る人^{にん}
皆^{みな}如^{ごと}い^いの^のと^と思^{おも}ふ^ふと^と俄^{いつ}に^に婢^ひ妾^{せう}と^とな^なる^る
と^とな^なる^る子^こ婦^ふと^とは^はう^うし^して^て人^{にん}
情^{じやう}の^の方^{ほう}と^と父^ふ母^ぼ子^こ婦^ふ共^こふ^ふ安^{やす}ら^らふ^ふ
ら^らす^す又^{また}婢^ひ妾^{せう}と^と賤^{せん}男^{なん}婦^ふ女^{にょ}と^と
さ^さの^の多^{おほ}し^しハ衣^い人^{にん}と^とな^なら^らす^すと^とな^なる^る

の家業せしむるを勞役とせし父母
小治ふべきを由りし二三人の
男女はわたりも其業のほども
おもしろくひきつる朝夕の心術
存意の成敗不失し一家和睦
母順なりとせしを至る人
前漢の文帝宋の代乃山岳
へ天質此養也存意の一事ふ
と生念安行なりとせしを
わたりし子の力とせしを母

は久富貴しき婢妾の事とせし
くつけせし人ふくせしとい
ひく下つる者のおとせしけ
しと不実しとせしけしと
たれ言とせしとせしと至善と
せしと其為とせしとせし

此世四孝ハ息游軒熊澤了芥先生の注
釈なり附録にある人の問ふ答へで孝道
至理を教授しぬひつゝを梓行して世に
むろくを榮

寶永庚寅冬

小山知常誌

文化十稔酉初春永板

吉田屋新兵衛

文化十稔酉初春永板
吉田屋新兵衛

